

令和2年度 大熊・双葉環境まちづくりミーティング

第1回：7月19日（日）大熊町役場
第2回：8月23日（日）大熊町役場
第3回：9月12日（土）双葉町産業交流センター

大熊町・双葉町・環境省共催

大熊町、双葉町の復興を進めていくためには、環境再生や帰還環境の整備に加え、まちづくりの軸として求心力のあるビジョンを定め、様々な施策を重ね合わせて、特色あるまちづくりを進めていくことが不可欠です。

このため、環境省は、両町にゆかりがある福島県内外の若手世代や最前線で活躍されている方々、企業の皆様とともに、「大熊・双葉 環境まちづくりミーティング」を大熊町、双葉町と共催で3回にわたり開催し、まちづくりについて意見交換を行いました。

ミーティングの参加者から提案された81個の環境まちづくりのアイデアのうち、参加者が自ら選出した複数のアイデアを基に、両町の30年後を表現した未来図が完成しました。

目次

各回の概要	2
大熊町の未来図	8
双葉町の未来図	9
未来図表現ワード	10
81個のアイデア一覧	11
参加者アンケート結果	18

【第1回概要】

実施日：2020年7月19日（日）

会場：大熊町役場本庁舎（1F おおくまホール）

参加者：78名（現地参加43名、web参加35名）

2050年の大熊町、双葉町の姿を参加者から提案していただくこととし、ワークショップ形式で、①制約なしに可能性を信じよう ②立場を離れて対話しよう ③お互いを尊重しようという3つの約束事を確認して実施しました。
その結果、参加者から269個もの提案がだされました。

（プログラム内容）

第一部 トークセッション（進行役：立命館大学衣笠総合研究機構
開沼 博准教授）

- ・小泉進次郎環境大臣プレゼンテーション
- ・大熊町吉田 淳町長プレゼンテーション
- ・双葉町伊澤史朗町長プレゼンテーション
- ・大臣・町長トークセッション

第二部 情報提供

- ・水俣市（国保水俣市立総合医療センター事務部 松木部長）
- ・大熊町（企画調整課 石田係長）
- ・双葉町（復興推進課 田中主幹）
- ・環境省（環境再生・資源循環局 大倉企画官）

第三部 ワークショップ（コーディネーター：名古屋商科大学大学院
ビジネススクール 小山龍介准教授）



小泉環境大臣



小泉大臣・両町長と
参加者の記念撮影



会場の様子①

参加者がアイデアを自ら記した模造紙（現地会場）



現地Aグループ



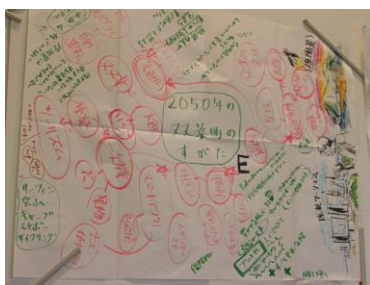
現地Bグループ



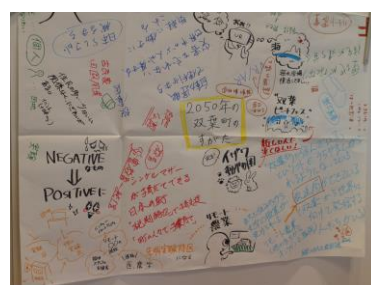
現地Cグループ



現地Dグループ



現地Eグループ



現地Fグループ



現地Gグループ



現地Hグループ



現地Iグループ

参加者がアイデアを付箋に記した模造紙（web会場）



webグループ1



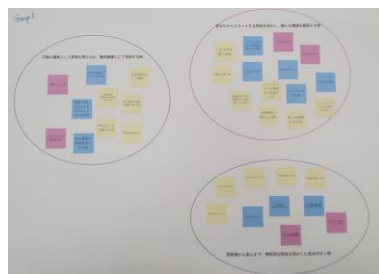
webグループ2



webグループ3



webグループ4



webグループ5



webグループ6



webグループ7

【第2回概要】

実施日：2020年8月23日（日）

会場：大熊町役場本庁舎（1F おおくまホール）

参加者：73名（現地参加44名、web参加29名）

第1回で提案された269個の2050年の各町の姿の中から、2023年までに着手できるプロジェクトを、その実現性の観点から議論することとしました。着手にあたり、地域のリソース、事業パートナー、事業価値について具体的に想定したところ、81個のアイデアが出されました。

（プログラム内容）

- 前回の振り返り（全体進行役：立命館大学衣笠総合研究機構 開沼 博准教授）
- ワークショップ（コーディネーター：名古屋商科大学大学院 ビジネススクール 小山龍介准教授）
 - ・プロジェクトリストづくり
 - ・プロジェクトリストづくりのアドバイス
 - ・参考情報提供「脱炭素と地域振興の視点」
（環境省 大倉企画官）
 - ・プロジェクトリストの追加、順位付け
 - ・ビジネスモデルづくり
 - ・ビジネスモデル発表



進行役の開沼先生



コーディネーターの小山先生



会場の様子②



会場の様子③



会場の様子④



会場の様子⑤

第1回での検討を踏まえ分類したまちづくりの15領域

大熊町			共通	双葉町		
若者・移住促進 → 移住人口の増加 移住・ワーケーション 海と山のワーケーション事業 リモート推進高速WiFi事業 エコで便利なタワマンのような新たな生活空間を建設 ZEHなどスマートな住環境整備 別荘開発事業 アーティスト、ライター・イン・レジデンス事業 教育・子育て 子育てサポート事業 シェアリングエコノミー 自然・環境・防災教育 高度研究・技術開発人材を育てる 初等中等高等教育事業	産業創出 → 雇用の増加、企業誘致 エネルギー・脱炭素 脱炭素最先端工場誘致 ESG投資の受け皿になる企業育成 低電化による企業育成 製菓事業 帰還困難区域を活用した物流拠点 IT・5G ローカル5G整備による新産業誘致・育成 最先端技術促進事業（IT、IoT、ロボット） インキュベーション 起業家支援事業 伝統工芸を使った若手育成事業	楽しい街へ → 交流人口、来訪者数の増加 観光 大熊湖参り事業 観光列車事業 修学旅行事業 グリーンツーリズム スポーツ・レジャー 再エネロックフェス事業 海のレジャー（ダイビング、釣り、ヨガ） 高校大学のスポーツ合宿聖地化事業 日本一広いドッグラン事業 ウォーキングイベント事業 自然 玉の湯・温泉振興事業 復興自然公園事業 生態系アトリケモンGO	脱炭素・再エネ 再生可能エネルギー発電事業 景観を考慮した再エネ事業 エネルギー施設世界一 中間貯蔵施設での太陽光事業 海洋（波力）発電 パナム城主事業 脱炭素都市計画 メガシティブロー200事業 バイオ燃料 海水を使った水素自産 再エネ100%カーレース	楽しい → 来訪者数の増加 イベント創出 ビーチイベント・音楽イベント事業 アウトドアレジャー事業 体験事業 キッズプログラム、ミュージアム事業 マリンレジャー（サーフィン・フィッシング） 風船観光事業、民泊事業 学習旅行事業（修学旅行） 防災・危機管理先導地として教育観光事業 季節によって郡会の人に任せてもらう 高付加価値地域滞在推進事業 子どもアート教育事業 没入型バーチャル事業 まったり取りツアー 風景を使ったフォトグラフィア育成事業 地域の産品を使った観光列車 名所作り・太平洋 キャンプ事業（海浜公園復活） 別荘開発事業（ワーケーション事業） 海新設事業（ヨットハーバー） 広大な土地を使ったレジャー施設	カッコいい → 価値の向上と基幹産業の活性化 発信：ブランディング・アート アーティスティックインレジデンス アート・空き家・夜場丹舎 アートのまちづくり事業 メディア放送局事業 Webで海外と町をつなぐ発信事業 防災に強い5G5G発信事業 ブランド化及び付加価値増進事業 緑が広がる海沿い研究の町としてのブランディング 食糧の聖地化事業、食文化発信事業、 ボタニカル・ガーデン・パーク事業、 多言語サービス事業（ガイド通訳）、 外国人に任せてもらう移民誘致事業、 交換留学事業、海外からのホームステイ 受け入れ事業 高度産業事業 ゼロ・カーボン農業 野菜工場事業、農業施設、販売事業 クリーン農業、ドローン・ロボットによる農業スマート化事業 農地の大規模化による防犯事業、 スマート農業、希少作物を育み利用したサブリ開発事業、ブランドフルーフ事業、高付加価値ハウス事業	元気になる → 健康・快適・暮らしやすい スマートヘルスケア 医療ツーリズム 大熊湖の真利用 リモート診療による医療 希少作物を育み、利用したサブリ開発事業 スポーツで健康推進事業 自然の中での高齢者支援事業 小児モビリティ・健康 ウォーキングイベント 創意工夫の住宅整備 ゼロ・カーボン住宅事業 超高級カービキ付き高齢者住宅事業
幸福な高齢者 → 医療福祉の整備、福祉促進 安心の老後 福祉の基盤事業、日本一介護事業 超高齢サービス付き高齢者住宅 自然の中でのお年寄り健康事業 特色ある医療 放射線治療日本一（がん治療） ライザップ実証事業 先進医療・治療・実証 大マシ健康増進研究 リモート診療・健康診断 医療福祉系専門学校・大学誘致 大野病院の再興	暮らしやすさ → 便利、安心、住みやすいまち 交通 コンパクトシティ事業 脱炭素スローモビリティ事業 ロボット車用道路整備事業 レンタサイクル・レンタカー事業 自動運転 コミュニティ・きずな コミュニティベース事業 飲食店 地元町民・高齢者向け修学旅行 防災・レジリエンス レジリエンスの高いまちづくり	農林水産業 → 基幹産業の復興 農林水産業 フルーツ（梨・マンゴ、キウイ等）栽培（季節外れ、多品目、先端技術） 通商・最先端技術実証事業 スマート農業、IoT農業事業 熊川の鮎事業 農業体験（松茸とり）合宿事業 産直販売、地域特産品PR事業 栽培、農業技術、農業参り事業	震災遺産 メモリアル セントラルパーク整備事業 熊野神社再生事業（図書館等） 原子炉遺産化事業 中間貯蔵海浜公園 大熊湖産業ドーム（シンボル） 震災アーカイブ施設事業 風景を使ったフォトグラフィア育成事業 ふるさと思い出伝承事業 ツーリズム 原典ツーリズム事業 VR震災体験事業 語り部育成	なつかしい → 魅力向上・帰郷意識の向上 まちなみ・景観 市民農家を使った古い町並み観光事業 空き家を生かしたゲストハウス・ホステル 空き家一棟まるごと改築、改築事業 教育の町再興、双葉高校復活 自然住宅分譲事業 パワースタイル ホテルが暮らす町 食文化発信事業 アトラクティブな交流事業 キャンプ場事業（海浜公園復活） 伝統 神事などのお祭り観光事業 双葉の由来から見る（相馬藩時代）の歴史などの発信事業	便利な、withコロナ → 暮らしやすさ 移住しにくくなる環境 モビリティ 自動運転を視野に入れた交通整備事業 再エネを使った自動運転事業 気候変動利用道路整備事業 スローモビリティ健康事業 公共交通No.1 地域の産品を使った観光列車 ウォーキングイベント 通信 通信ネットワークの整備 リモートワーク推進事業（高速wifi） 5G整備による最新産業促進事業 なりわいスタートアップ 海と山ワーケーション 別荘開発事業（ワーケーション） なりわい推進事業、起業家支援事業 コミュニティビジネス支援事業 地域課題のビジネス化事業 なりわいスタートアップ支援事業 起業家向けサポート事業 少額融資（グラミン銀行）事業 ワークスペース提供事業 シェアリングエコノミー	さらなる高みへ → 新技術の追求 次世代人材育成 アロシマアロシマド育成 気候変動に対応する人材育成 インフラエンジニア事業 環境意識の高い人ネットワーク事業 とんがったリーダー人材育成事業 シブバ・人材事業 ビジネスアロシマド育成事業 教育 高度研究・技術開発人材を育てる 初等・高等教育事業 学習旅行事業（修学旅行） 大学の誘致 教育の町再興、双葉高校復活 大規模宇宙産業 日本初の民間宇宙旅行基地事業 宇宙エンターテインメント事業 飛行場からの宇宙事業 宇宙防衛

第2回のミーティングは、この15領域それぞれにグループ分けされた参加者により、ワークショップ形式で行われた。

【第3回概要】

実施日：2020年9月12日（土）

会場：双葉町産業交流センター（1F 大会議室）

参加者：70名（現地参加46名、web参加24名）

第3回では、第2回に各自が作成したアイデアをポスターとしてビジュアル化しました。大熊町、双葉町それぞれ9領域から参加者投票により選ばれたビジュアル案を1つにまとめました。各町の将来像をわかりやすく伝えることができるよう参加者間で議論し、その内容を発表して終了しました。

（プログラム内容）

- 環境省挨拶
- 前回までの振り返り（全体進行役：立命館大学衣笠総合研究機構 開沼 博准教授）
- ワークショップ（コーディネーター：名古屋商科大学大学院 ビジネススクール 小山龍介准教授）
 - ・ビジネスモデルのポスター作成
 - ・投票によるポスター選出
 - ・大熊町、双葉町の選出ポスター集約
 - ・ポスター集約版説明発表
 - ・主催者、共催者挨拶



会場の様子⑥



会場の様子⑦



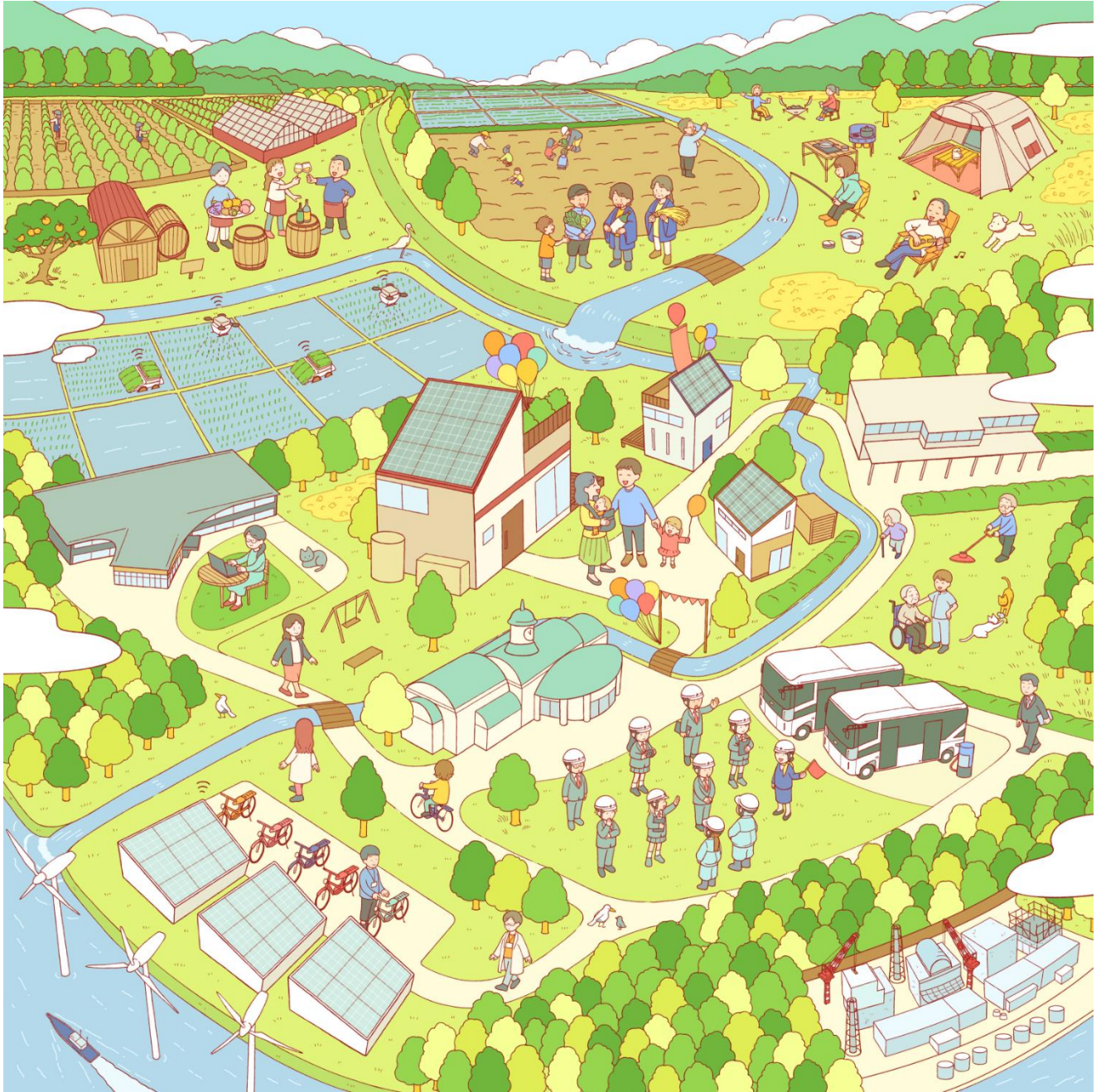
会場の様子⑧



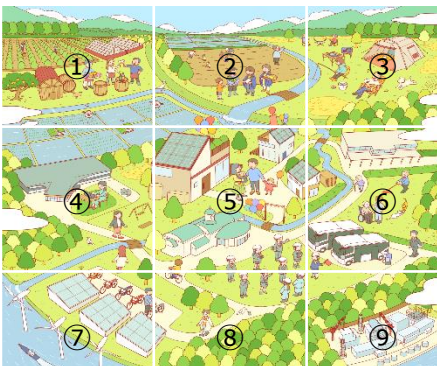
大熊町吉田町長



双葉町伊澤町長



【イラスト解説】



- ①リキュール製造事業
- ②高齢者を担い手とした6次産業化の実施
- ③キャンプを活用した防災学習事業
- ④農業技術開発拠点の整備事業
- ⑤ZEH住宅展示場整備
- ⑥地域医療機関の機能拡充
- ⑦RE100データセンターの設置
- ⑧国際研究拠点の整備・誘致事業
- ⑨修学旅行誘致



- ①ゼロカーボンロケット技術開発拠点整備
- ②林業のデジタル化・自動化・育成
- ③観光公共交通事業
- ④帰還・移住検討者にむけた民泊事業
- ⑤謎解きイベント等を導入した観光事業
- ⑥アプリ、レンタサイクルを活用した観光事業
- ⑦RE100データセンターの設置
- ⑧国際研究拠点の整備・誘致事業
- ⑨修学旅行誘致

【未来図を見て思いつくスリーワード】

ミーティング参加者の皆様に、「大熊町、双葉町の未来図を3つの言葉で表すとしたら」と質問した際の回答を列挙しました。

- 土地の力、技術の力、生きる力
- 豊かさ、巡る、里
- 農業の実体験ができる（イチゴ・梨・キュウイ）、ノーカーボン・自然再生エネルギーのメッカに、福島第一原発事故を学ぶ防災教育
- 人、自然、産業
- つなぐ（過去&未来,人&人,モノ&もの,内&外）、つづく（サステナブルな取組み）、つたえる（大熊町ならではの発信）
- 安心、楽しめる、くつろぐ
- 自然、再エネ、震災の記憶
- 農業、会社(法人)、地元の人のプレゼンス
- エネルギーの地産地消、自然と農業、防災DX（デジタルトランスフォーメーション）
- スマートシティ、農業に強い町、震災復興都市
- 開拓、伝承、発見
- 若者が一度は訪れる町（修学旅行・キャンプ）、高齢者がイキイキしている町（農業・ワイン・福祉の里）、エネルギーとデジタルの町（海洋風力・データセンター）

- 若者が一度は訪れる町（修学旅行・キャンプ）、高齢者がイキイキしている町（農業・ワイン・福祉の里）、エネルギーとデジタルの町（海洋風力・データセンター）
- 小さくスタート、自然と共に、誰でも参加できる
- 循環する自然、挑戦の機会、最先端の科学
- 循環、出会い、きづく
- 開拓、伝承、発見
- 豊かな自然が生み出すパワー、優れた農業と美味しい食べ物で健康に、震災からの復興
- 最先端技術・研究「カッコいい」、再エネを活用した生活インフラ「優しい、防災教育の伝承・発信「つなぐ」
- 原発の町、思い出の町、新しい町
- 自然、ICT、クリーンエネルギー
- 伝承、デジタル、リアル

ミーティング参加者から提案されたアイデア集

	領域	タイトル	説明文
1	脱炭素・再エネ (共通)	「双葉郡広野町『奇跡のバナナペーパー』」でつなぐ地域循環共生圏	廃棄処分されている広野町のバナナの茎を活用した「バナナペーパー」。これを福島県の風力発電の電力を使って福井県で製造、横浜市で印刷。出来上がったバナナペーパーを使って、レジ袋に替わる店舗で使われるショッピングバッグ、名刺、福島県の学校の卒業証書などに使っていきます。
2	脱炭素・再エネ (共通)	農地保全による3軸事業(農地保全+メガソーラー+養蜂)	①農地保全を目的とした土地利用(地権者目線での利用) ②メガソーラー利用による企業誘致(再エネ電力を低料金で利用可能)電力会社設立 ③ソーラーパネル下を利用した養蜂・マイハニー制度(世界的に減少傾向にあるハナバチを増やす事と、パネル下の草刈り作業軽減)。
3	脱炭素・再エネ (共通)	「自然エネルギー100%のデータセンター」	福島県産の再生可能エネルギーを100%使用したIT企業のデータセンターと開発拠点。
4	脱炭素・再エネ (共通)	RE100 国立データセンター ～デジタル庁の内核として～	地域の自然を活用(平坦な土地、河川の水、洋上風力、太陽光発電)。 日本のデジタル資産の中心拠点。 一時的でなく、長期の産業として地域の中核に。 高いセキュリティの安心できる街。
5	脱炭素・再エネ (共通)	つながる再エネ(大熊産・双葉産)	海と土地を使って顔と顔のつながる(交流のある)クリーンな電力・供給事業。
6	脱炭素・再エネ (共通)	リサイクルステーション21 バスZoom視察中継	水素ステーションや再生可能エネルギーを活かし、自動車メーカーやバス会社の力を活用して、人と人とが交流できる脱炭素社会を創成する。(事務局にて説明文作成)
7	脱炭素・再エネ (共通)	庁舎から発信! CO2CO2(コソコソ)削減CO2 Zero Energy Building 事業	大熊町・双葉町のエネルギー政策へのコミットメントを示す事業。エネルギー政策の上では、再生可能エネルギー普及の推進とともに「エネルギー効率の向上」も必用不可欠であり、まずは後者への取り組みを庁舎から発信。 庁舎が実施するメリットとしては、上記の外部に向けたPRや、ESGの観点からも注目されている「職員の健康と快適性」(Health & well-being)の向上に加え、光熱費の削減といった直接的なメリットもある。 ZEBとなった新しいグリーンなビルの愛称を地元の方から募集する等の施策も面白いかも。 「CO2CO2(コソコソ)削減」を推進するキャラクターも面白いかも。 ※公共建築物の場合、オーナー自らが建物を利用するためテナント専有部の影響が少なく実現可能性も高いかもしれません。
8	脱炭素・再エネ (共通)	人にも魚にも優しい洋上風力発電事業	クラウドファンディングや自治体からの出資を活用した洋上風力事業。 震災からの復興を果たした大熊・双葉産の電気を日本全国で活用。 発電施設(海中)に漁礁の役割を持たせて、海の生態系の保全にも貢献。
9	研究開発・廃炉 (共通)	衣食住足りて研究す	最高の生活環境、地域との絆。 イノベーションコスト構想や国際教育研究拠点により研究・教育の人材拠点を置く検討がされている。 生活のための最低限のインフラではなく最高の環境を整え、また地域社会との交流を図ることで持続可能な教育研究開発の拠点を創出する。
10	研究開発・廃炉 (共通)	学んで。	#FUTABA #OOKUMA #復興ツーリズム #震災伝承 #教育 #廃炉研究 #FUKUSHIMA #hope #travel #フィールドワーク #来て #見て #学んで
11	研究開発・廃炉 (共通)	廃炉・除染から学ぶロボット技術 国際イノベーションセンター	廃炉作業・除染作業のテストフィールドを通じ、国際研究機関や民間事業者と連携して遠隔自動運転などの最先端のロボット技術を研究開発できる国際イノベーションセンター事業。
12	震災遺産 (共通)	VRで震災体験 実際の景色に重ねて さらに未来の夢も描ける	①マリンハウス、学校、原発などの震災遺産を保存する。 ②震災遺産の見学ツアーをする。 ③参加者にヘッドマウントディスプレイなどで実際の景色と重ね合わせて災害の状況を体験してもらう。 ④参加できない人にはネット配信。 ⑤未来の夢のイラストを描ける!!

	領域	タイトル	説明文
13	震災遺産 (共通)	防災教育のメッカとしての双葉郡への修学旅行	交流人口の拡大の修学旅行。 防災教育が学べる唯一の場所。 まちづくりに貢献することができる。 最終的には、地域の魅力を感じてもらい移住の一助とする。
14	若者・移住促進 (大熊町)	記載なし	若者が新たに挑戦できる環境(ベンチャー創出)。 IoT、ICTを活用した未来のまち(自動化)。 誰もが健康で生きがいのあるまち。 エネルギーの自給自足のまち。
15	若者・移住促進 (大熊町)	大熊に来ると、何か楽!! 体が、心も。	地域のインストラクターがボディチェック。 必要に応じたメニュー促進。 地元でとれた野菜食べれるよ。
16	若者・移住促進 (大熊町)	大熊町で働いてみたい外国人を大募集 ～福島からの国際貢献という新たなステージへ～	大熊町ならではの先端農業や産業を体験・実習したい外国人を募集し、町の魅力を知ってもらいきっかけ作りに、また、将来の担い手のマッチングを行います。
17	若者・移住促進 (大熊町)	最先端の再エネルギー技術を学べる国際トレーニングセンター	世界各国の人々が、自国のエネルギー問題を解決するため最先端の技術を学びに来る、中長期間滞在型の国際トレーニングセンター事業。
18	若者・移住促進 (大熊町)	エネルギーを作って、使う。自給自足の、まだどこにもない! 住宅展示場	大切な家族との時間をより快適に、経済的に健康的に! 一生に一度のお買物の参考に。最新技術をつめこんだ、未来のお家お楽しみください!
19	若者・移住促進 (大熊町)	あなたの願い、かなえます!	移住者がやりたいこと(ex.農業したい!)を実現できるパートナーを見つけてくれるシステムの開発事業。 移住者: やりたいことを実現、魅力を発信できる! パートナー: 隠れたニーズを発見、強みをアピールできる! 出資者: 成果物(一部)を獲得できる! 復興への一体感を味わえる!
20	若者・移住促進 (大熊町)	『人間最後に物を言うのは筋肉!』	広大な土地を活かし、スポーツ振興団体や民間スポーツジムの力を活用して、健康な人生を提供する。(事務局にて説明文作成)
21	若者・移住促進 (大熊町)	新たな町民も元町民もふるさとに住める二拠点居住事業	広大な土地、安い賃料、良好なアクセスを活かして地域住民や研究者、出向者らと避難している町民が大熊町で短期(継続的)居住ができる二拠点居住事業(共有の畑を設置し、農作業で交流を食料確保もできる。)。
22	若者・移住促進 (大熊町)	単身でも楽しめる街	単身赴任者で企業や業種の違う人達が共通な趣味を通じ楽しむ!
23	若者・移住促進 (大熊町)	クラウドファンディングでアイデア募集! 「大熊のハコモノを自由に使って良い、と言われたら、何をしてみたいですか?」	大熊町の音出し放題広い土地や綺麗な道路、図書館、学校・プールなどの公共施設を活用した、「大熊町でこんなことをやってみたい! 」というアイデアを実現するためのクラウドファンディングです。 大熊町の魅力を引き出せるようなアイデアをお待ちしています!
24	若者・移住促進 (大熊町)	テクノロジーde大熊リノベーションタウン	使われなくなった学校、体育館などの公共の施設を活用し、「技術の街」として再生していくプロジェクト。 IT系の企業(ベンチャー企業など)がサテライトオフィスとして都会などではできないような様々な実験などを試すことのできる「技術を試せる街」。 企業が使われなくなった公共施設などをリノベーションにて施設に変え、様々な設備を兼ね備えることによって「技術を磨く街」。諸外国からの技能実習生を受け入れて「技術を教える街」を作る!

	領域	タイトル	説明文
25	農林水産業(大熊町)	フルーツの里おおくま リキュールプロジェクト	大熊町は元々 無し、キウイ等フルーツ栽培が盛んでした。現在もイチゴ、キウイ作りをしています。 →ブランドイメージを活かせる。→栽培のノウハウを活かせる。学校を造る！！ フルーツリキュールを作る！！ターゲットは①女性②低アルコール健康志向③家飲み 体に良いお酒を作る(食物繊維・グルテンフリー)
26	農林水産業(大熊町)	こんな時代だからこそ！農業をやってみ たあーい！！	豊富な農地、たよれる農家、農作業で心身共に健康に。 自分で作って自分で食べるって豊かだなあ〜。 ひとり1農業プロジェクト。
27	農林水産業(大熊町)	ほろよいビタミン フ ルーツ・リキュールの 里おおくま	大熊のフルーツ、川内村、会津の醸造所を活かした、フルーツ・リキュールの里づくり事業。
28	農林水産業(大熊町)	農業法人の設立によ り、家族みんなが笑顔 になる 働きやすく・スマートな 農業を展開します	転入者の方は週休2日制、長期休暇取得、安定収入などワークライフバランスの取れた 労働環境を提供。 高齢の既存農家さんはアドバイザーとして活躍し、新たな生きがいを創出 Type something。 ドローン、自動収穫ロボット、IoTなどを活用し、圧倒的に効率的な農業を実現。 高品質な作物を安定供給する→大熊町のランドマークに！
29	農林水産業(大熊町)	ONE TEAM みんな で農業・人育て ONE HEART	大学での専門的学び、企業のBack upスマート農業指導、大熊町地元農家さん、海外から の若者、農業女子。 大熊町の強みである農業。農業を通じて人材を育成し、魅力的な農業を広めてゆく。 農業を目指す人が集い、交流しイノベーションを生み出せる町に！農業で元気になる町 に！
30	農林水産業(大熊町)	動物向けの農作物、 加工品	ペットフード向けの農作物生産、ペットの健康。 風評回避、加工用農作物。
31	楽しい街 へ(大熊町)	再エネ フェス！！	再生エネルギーと空地、空家を活用して福島ゆかりのアーティストと一緒に地域を盛り上 げ交流を生む再生ミュージックイベント事業。
32	楽しい街 へ(大熊町)	大熊町で君もキャンプ 名人になろう！！	坂下ダムでキャンププロに。 キャンプのノウハウを教わろう！キャンプの知識は災害時に役立つぜ！！
33	楽しい街 へ(大熊町)	復興が観光資源にな る町づくり	不思議な自然を舞台に0ゼロから1を生み出す活動がイベント・アトラクションになる！ 野原を畑に！ネットで町民を集める！
34	楽しい街 へ(大熊町)	「あなた」がつくる DASH村ゾーン	地域外から来た人達が現地の専門家・農家などに教わりながらまちづくり体験を楽しむエ リアの設定。 →ネットで配信する。
35	楽しい街 へ(大熊町)	懐かしくて新しい！！	隠れ家のような古民家カフェ、旧校を活かした作業所、街中のオブジェ。
36	幸福な高 齢者(大熊町)	『年齢や距離を飛び越 える未来住宅』	最新技術で「最高の健康管理」と「離れて暮らす家族と繋がる」。 普通の生活でバイタルデータを取る(トイレ→尿「糖・塩分」(センサー→心拍)。 上記のデータが保健師に届き、毎日状態に合った食材とレシピが届く。 大型モニターTVで、ボタン1つで家族と会話が可能。
37	幸福な高 齢者(大熊町)	老後の生きがいは大 熊で	外から来て 大熊に住んで 交流しよう 役に立って
38	幸福な高 齢者(大熊町)	日本のパークゴルフ 場	パークゴルフ発祥地(北海道・十勝と双葉町のつながりと広がり(全国大会〇〇杯))。 双葉さくらカップ。

	領域	タイトル	説明文
39	幸福な高齢者(大熊町)	日本一の“おもてなし”ができるパークゴルフ場	ふんだんな土地、アクセス良好！コンシェルジュも付く！地域の名産品がお土産！高齢者が集うコミュニティ！
40	幸福な高齢者(大熊町)	福祉の里	大野病院を核とした医療看護・介護者を育成する町の中で、気軽に暮らせる高齢者永住シティ。
41	産業創出(大熊町)	みんなの農園	地域管理の畑を町民に開放し、町民が手軽に農業体験できるサービスを展開することで、農業に関心のある方を町に呼び込む。 地域の農家さんからアドバイスを受けて、IoT技術を利用することで、どこでも、誰でも、働きながらでも農業体験が可能。 自身で地域の特産物を栽培し、自分で消費するライフスタイルを提案。 農業のコツや取れた農作物の調理方法などもシェア。
42	産業創出(大熊町)	スタートアップ	せっかく新しい町を再開するなら…。 農業機械メーカー…etc。 北小を農業技術系スタートアップのオフィス協業拠点として、町全体を農業ラブに！！
43	産業創出(大熊町)	家族の健康を守る世界最先端の遠隔医療サービス	まだ病院の多くない地域特性を活かし、離れた地域の病院や最先端のデジタル医療事業者・起業家と行う住民向け遠隔医療の事業。
44	産業創出(大熊町)	地産地消の再エネ発電所を作る！ 地元で使う！みんなで使う！	地元に空いている土地の有効活用で産業創出！大きな土地が必要な太陽光発電所・海辺の風を捕まえる風力発電所を作る！作った電気を地元で使う！ 余った再エネ電源をRE100企業にも分ける！
45	産業創出(大熊町)	シニアが住みたい町	都会の喧騒を離れて豊かなシニアライフ。 充実したオンライン診療で自宅に居ながらにして最新医療を。
46	産業創出(大熊町)	大人も子供も一緒に支える町	伝統工芸の次世代への継承としてITを活用して伝統工芸と学校教育を融合させます。 将来的には地域特産品産業としての確立を目指します。
47	暮らしやすさ(大熊町)	高齢者がイキイキ・ワクワク！農作物DEコミュニティ	高齢者が担ぎ手となって、キウイ、酒米・梨といった農作物の特産品を農業技術者、有名シェフ、食品加工者などのパートナーの力を借りて、栽培から加工品までを一貫して生産するコミュニティを作る事業。 高齢者の健康サポートだけでなく、生産品をブランド化し販売することにより、気持ちもワクワクするホットな事業。
48	暮らしやすさ(大熊町)	ブラックアウトしないまちづくり	大熊町は、空いた公共施設や農地、海風などの最大限に活用し、エネルギーの地産地消と安心・安全に暮らせるまちづくりを目指します。
49	暮らしやすさ(大熊町)	クリーンエネルギーで未来を照らす街	郊外の太陽光発電 自然との融合都市 洋上風力 コミュニティモビリティ。 地域の再エネを利用し、エネルギーの地産地消 コンパクト化された街で老若男女が助け合い、停電時には、電動モビリティなどからのエネルギー供給を行う安全安心な街づくり。
50	カッコいい(双葉町)	狼煙を上げる	豊富な環境のもと、古より狩猟を生業とする集団【マタギ】を最新デジタル技術が盛り上げる。 『命』尊さ、『共存』害獣管理、『食』ジビエの魅力、コンテスト、『遊』ドローンコンテスト、『繋』後継者、『情報』レシピ動画。
51	カッコいい(双葉町)	デジタル林業 カッコいいいきり	子供の憧れ 小学生。 土砂災害防止にも ロボット、デジタル(自動)。 豊富な森林と昔のきこりさんと新しい技術を使って、カッコいいいきりを育成する。
52	カッコいい(双葉町)	自然とともにクールに生きる ～地域に根差したバイオマス発電～	グランドがマツで覆われ始めた県立浪江高校。 拡大する森・荒れた森を管理する木こり、彼らの厳しくも恰好良い「仕事」を表現して、後継者を育てたい。 また、出た伐採木をバイオマス発電でエネルギーとして再利用する。
53	楽しい(双葉町)	ふたばリモートVRツアー	震災の体験者を語り部として使って、まちづくり会社や旅行代理店と行う被災地体験、VR、リモートツアー。
54	楽しい(双葉町)	馬車・馬で移動	復興祈念公園 産業交流センター(Fビック) JR双葉駅 伝承館 二酸化炭素を出さない楽しい移動手段事業。

	領域	タイトル	説明文
55	楽しい(双葉町)	私すきです 海ふたば	日本の快水浴場100選 環境省
56	楽しい(双葉町)	四季に惚れ込む双葉民泊へ	地域の既有住宅をリノベし、建設会社その他周辺企業と連携して行う「思い出と未来をつなぐ」事業。
57	楽しい(双葉町)	復興祈念公園 Super	防災 Safety、レジャー Camp、鎮魂 pray、フェス Music、復興 再生 Reborn 震災を知る。復興を知る。防災を知る。超高機能復興祈念公園。
58	便利with コロナ(双葉町)	ふたば未来学園と地域連携 ～未来の人材と共に成長しよう～	未来の人材と地域連携の機会を生み出す。 ふたば未来学園の地域共同スペースという地域の人と触れ合える場と、未来創造探求という、地域課題の解決に取り組む授業の場を活用するため、地域(双葉郡・双葉町)と連携をスムーズに行えるようになる事業を提案します。
59	便利with コロナ(双葉町)	ペットと共存できる双葉町→ペットも家族みんな集まれ	これから整備していく地域を活かし、獣医やペットホテル経営者の力を活用して、ペットと住める新しい街を創る。(事務局にて説明文作成)
60	便利with コロナ(双葉町)	コースを巡って特典Get！双葉駅前からはじめる地域観光	アプリと連動したレンタサイクル事業。マップの地点を巡ったら、地域の果物やオリジナル商品などの特典をプレゼントしPR。
61	便利with コロナ(双葉町)	ペットとの共存で長寿の町	高齢者がペットの世話にやり甲斐を感じて生活することで長寿の町が誕生する。
62	便利with コロナ(双葉町)	「地元産の電気」を使ってポイントをもらおう！	地域の再生エネルギー ex.太陽光発電 ex.水素エネルギー 県外でも双葉産の電気を使える。 大熊町・双葉町で作られた「再生エネルギー」を使うと電気代の一部を「だるまポイント」として還元。 ポイントは町内での買い物に・・・。
63	さらなる 高みへ (双葉町)	世界がおどろく双葉の復興	福島第1原発、5号・6号、中間貯蔵、双葉高校、宇宙開発事業者、慈善基金団体、国際教育研究、被災そのまのまちなみ。 新しいまち、ふたば横丁、観光、ホテル、飲食店、スマート農業。 交流人口300万人／年 元気になってしまう1日を！！
64	さらなる 高みへ (双葉町)	復興の歴史VR	双葉の歴史を歩いて解る町の姿事業アルバム。
65	さらなる 高みへ (双葉町)	世界で唯一の教育研究施設	教育の町 双葉の歴史・広い双葉高校の敷地 宇宙・原発・ハイロの研究フィールドそのもの 国際教育研究拠点
66	さらなる 高みへ (双葉町)	ふたばレインボーソース！ シルバー人材による双葉町の世界プロデュース(Youtuber)	さくらのまち ふたば！！第2の人生の生きがいの提供。
67	さらなる 高みへ (双葉町)	若者、世界にとって魅力的な教育環境の創立	「廃炉と復興」は世界でも福島特有の課題。その課題を逆手にとり、フィールドワークで廃炉と復興に必要な情報を集めたり、課題を解決するために様々な人を集め、解決策を模索する場を作る。 また学びの場へ移動手段としてスマート自転車など最新移動を打ちいて、楽しみながら学ぶ、「楽しい緩いワクワク環境」をつくる。このために浜通りの町が協力し合って、教育・交通環境づくりを全体整備する。
68	さらなる 高みへ (双葉町)	宇宙へちよいと行きたい人他にいませんか？ それなら双葉におまかせ 再生ゼロカーボンロケットのベース基地	ゼロカーボン・再利用ロケットを双葉から創り、発着の拠点へ。 協力(Power by) 双葉町、NEDO、機械メーカー、炭素繊維メーカー、ロケット開発事業者、イノベ機構。 ※ゼロカーボン→水素
69	さらなる 高みへ (双葉町)	シルバー人材の技能集結 双葉リノベーション事業	全国のシルバー人材が集まり、双葉校舎をリノベーション、TVチャンピオン特番、国際教育拠点の校舎へ。

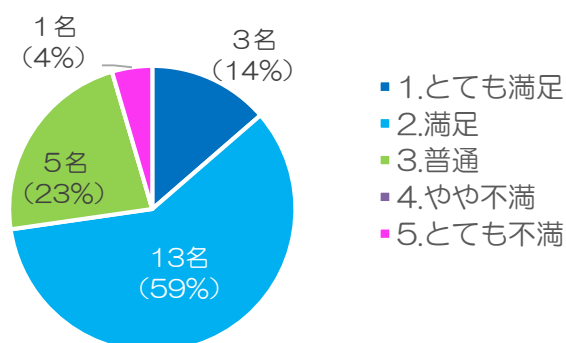
	領域	タイトル	説明文
70	元気になる(双葉町)	日本最大級のドッグパーク	中間頂蔵施設エリア内を利用して国・県・町 東京電力、獣医、ペット協会、ペットハウス店、協賛により全国のドッグコンテスト、コミュニティエリア、癒しの空間、休憩所、宿泊所。
71	元気になる(双葉町)	高齢者が生きがいを持ち、笑顔で安心して暮らせる町 リセット、高齢化社会	双葉には、山、川、海がある！！ コミュニティ 共同生活をする場所の提供(既存の施設、空家)、労働収入で生活を支える(自給自足)。「労働収入」と「年金」。
72	元気になる(双葉町)	歩いて、見つけて、お得にランチ	体:歩数×頭:謎解きで獲得したポイントに応じてランチ割引&インスタ映え、双葉町を知る。
73	元気になる(双葉町)	『双葉はウンコ農業で元気にするぞ！！』	牛のウンコ→ガス 電気を売る→消化液を畑に→エサを作る→牛が食べてウンコする→バイオ。
74	元気になる(双葉町)	毎日の血圧測定で健康診断と見守り	役場・社協、診療所、健康福祉課 毎朝 血圧測定(体温、脈)。独居老人等の見守り。子供からの見守り。薬の飲み忘れ防止。 役場健康福祉課、社協、診療所。
75	元気になる(双葉町)	里山手入で	安全 発電
76	元気になる(双葉町)	復興ウォーキングコースで学びと元気を！	忘れてはならない双葉町の風景と新たに生まれ変わった双葉町の景色を見ながら学びと元気を生む町へ。 (健康寿命の延伸、教育、集客・移住を目指す)集客 マラソン大会等イベント開催。
77	元気になる(双葉町)	ロボットで元気になるまちづくり ロボット技術の研究所	研究所(中学校・高校) ロボット タクシー、役所、農業 介護、病院、交通。 さらなる近代化。
78	なつかしい(双葉町)	移住体験「トライアルステイ」プロジェクト ～双葉町東側既存まちなみ利用民泊支援事業～ 双葉の『ファン』を増やそう！	帰還・移住検討者・旅行者にむけた 双葉のまちのくらし・なりわい体験機会の創出。 民泊を行う帰還者・移住者に、自宅建築(改修・新築)工事費支援および民泊利用者募集・運営に関するノウハウ・サービスを支援します。
79	なつかしい(双葉町)	復興のシンボル 双葉高校	名門高校を再び。
80	なつかしい(双葉町)	～VRタイムマシンでミニトリップ～	懐かしい祭りや街並み、思い出の郷土料理がVR映像となって甦る！ 地元生産者や帰還者、自治体が協力して思い出を甦らせる。タイムマシンVR事業。
81	なつかしい(双葉町)	めざせ！ホテルとともに暮らす街 ナチュラルタウンふたば	帰還者と開拓者が一体となって、双葉町の自然を活かしながら、地球にやさしいまちづくりをする事業。 東日本大震災を経て、双葉町の町並みは一変してしまったものの、取り巻く自然は変わらない。 環境学習やワーケーションに選ばれる、みんなのお気に入りの街を目指す。

参加者アンケート集計結果（回答者22人／参加者90人）

質問

（１）「大熊・双葉環境まちづくりミーティング」
全体の満足度をお聞かせください。

大いに満足	3名（14%）
満足	13名（59%）
普通	5名（23%）
やや不満	0名（0%）
とても不満	1名（4%）



70%以上の参加者が満足と回答

質問（自由記述）

上記選択肢をご回答された理由、ご感想等ご自由に記入ください。

ポジティブな意見

- ・様々な属性の方と議論できた（5名）
- ・復興に貢献できることがモチベーションとなった（1名）
- ・自分事化し前向きな議論ができた（1名）
- ・楽しみながら考えることができた（3名）

ネガティブな意見

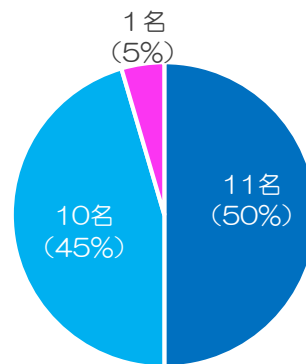
- ・議論を深める時間がもう少し欲しい（2名）
- ・自由な議論に慣れておらず、条件のない話し合いは非効率と感じた（1名）
- ・実現に即した議論の必要もあったのではないかと（1名）

時間をかけて更に議論したいという希望が複数名よりあった

質問

(2) 今後、本ミーティングのような大熊町・双葉町のまちづくりに関わる機会があれば参加したいと思いますか。

積極的に参加したい	11名 (50%)
テーマや内容によっては参加したい	10名 (45%)
参加したくない	1名 (5%)



- 1. 積極的に参加したい
- 2. テーマや内容によっては参加したい
- 3. 参加したくない

回答者の大半は参加したいと回答

質問（自由記述）

今回のまちづくりのアイデア実現に向けて、次に開催してほしいイベントや会議などありましたらご記入ください。

- ・実現に向けた具体的な議論の機会（3名）
- ・町（現地）の現状を知る機会（3名）
- ・国の具体的方針等がわかる双方向参加型の会議（1名）
- ・町の祭り等のイベント企画（1名）

質問（自由記述）

(3) その他、感想やご意見等ございましたら、ご自由に記入ください。

- ・今後、誰が主導してどのようにプロジェクトを進めていくのか知りたい（1名）